

# 子どもたちと一緒に寄り添う



子どもたちを支える支援員さん（田原本小学校）

幼稚園、小・中学校では、子どもたちがさまざまな悩みを抱えています。町では、どの子どもも自己存在感や充実感を感じ、生き生きと輝く教育の推進を目指し、子どもたちの実態に応じて支援にあたる人たちを町独自の支援策として配置しています。

今月号では、支援員や指導員などの配置状況や主な取り組みをご紹介します。

図 教育総務課 ☎34・2074

## 町費による支援員などの配置

### 〔幼稚園〕

● 特別支援教育支援員：個別の支援が必要な子どもに応じて5園で15人配置

### 〔小学校〕

● いじめ不登校対策・特別支援教育支援員：各校に1人配置

● 学校支援員：各校に1人配置

● 小学1年生での30人学級編制措置に伴う常勤講師：田原本、南小学校に配置

● 専科指導教諭：北、田原本、平野小学校に配置

● 日本語指導教諭：南、平野小学校に配置

### 〔中学校〕

● 特別支援教育支援員：各校に1人配置



● いじめ不登校対策指導員：2校に1人配置

● 教科担当教諭：各校の実態に応じて配置

※勤務時間の関係で、実際の人数と異なる場合があります。

## 主な取り組み

### ① いじめ・不登校の未然防止

教員だけでは目が行き届きにくい休み時間などの子どもたちの様子を見守ったり、学校に行きづらい子どもに寄り添ったりすることで、いじめや不登校などの未然防止や早期発見につなげています。

### ② 学力保障

学級担任の指示や問題の解き方をどをゆっくり説明するなど、子どもがつまずきにじっくり向き合うことで、子どもの心の安定と学力保障につな

## 子ども・先生・家庭をつなぐ

東小学校のいじめ不登校対策・特別支援教育支援員として働く得津光美さんに、支援員に携わって感じたことや、心がけている点などをお伺いしました。



得津 光美さん

東小学校  
いじめ不登校対策・特別支援教育支援員

支援員として4年目を迎えています。朝の一人ひとりの顔から子どもの様子をうかがいます。目を見れば、子どもの不安が察知できるときがあります。表面には出さなくても、親や友だちとの関係、勉強のことなどさまざまなことで悩み、心の中で悲鳴をあげている子どももいます。様子がおかしいなど思ったら、休み時間にそっと近づいて話を聞いてみます。子どもを信じて寄り添えば心を開いてくれることもあります。そんな時、子どもの顔は穏やかになります。学校現場には、先生とは違う立場の大人の存在も必要だと感じています。子どもは話を聞いてくれる人を待っています。

支援員をしていて一番うれしいことは、昨日までできなかったことができるようになる子どもの姿を見ることです。「子どもの力つてすごいなあ」といつも感心していて、私も元気をもらっています。子どもと先生と家庭。この3者のつながりが子どもの幸せにつながると思います。だから、私たちの仕事は、子どもと先生と家庭をつなぐお手伝いをするのだと考えています。私たちから先生方へ、先生方から子どもや家庭へ子どもに関わる情報を共有し、先生方と家庭がともに子育てを考え行動すること、で、深刻な事態を未然に防ぐこともできると思います。私たちの支援が子どもたちの笑顔につながることを願っています。

## 「チーム学校」で取り組む子どもの健全育成

「人は人によって人になる」という言葉があります。子どもたちの健全な成長は、学校だけでなく家庭、地域が一体となって初めて可能となります。同年齢だけでなく異年齢と接することや、親だけでなくいろいろな大人と接することを通じて「自分」というものを見つけ成長していきます。



東小学校  
中谷英二校長

さまざまな困り感や悩みをもつ子どもたち。その子どもたちを教員とともに「チーム学校」の一員として、支援員や指導員が学習・休み時間など学校生活全般を見守り支援しています。学習時、個別の声かけにより学習内容が理解できたり、指示を理解して作業がはかどったりしています。また、じっくり話を聴くなどのサポートにより不安が解消し、笑顔になる児童がいます。そして、問題行動の未然防止、早期発見・解決への目配り、気配り…。

子どもが健全に成長するためには、多くの人の見守りが大事です。田原本町では、多くの支援にあたる人たちの「チーム学校」の取り組みの中で子どもたちが育っています。

げています。

### ③ 小1プロブレムの解消

小学1年生での30人学級編制措置や支援員などの配置により、子どもの頑張りを認め自信をもたせながら、小学校の生活習慣や学習規律を身に付ける支援を行っています。

### ④ 日本語指導による外国籍児童生徒への生活・学習支援

外国籍児童・生徒への日本語指導を通じ、学校生活の不安を和らげ学力保障につなげています。また、保護者と学校とのパイプ役にもなり、学校とのスムーズな意思疎通を支援しています。

### ⑤ 特別支援教育の充実

子どもの中には、嫌な思いや苦しい思いをどうしていいかわからず「困り感」を抱く子がいます。困り感への適切な支援がない場合、自己肯定感の低下やひきこもりなどの深刻な事態に発展する可能性があります。困り感の原因の見極めと、事態の未然防止のため、支援員の多面的な子どもへの理解が生かされています。

また、学校・園では、階段からの転落や子ども同士の衝突などの事態も起こり得ます。支援員の活動は、これらの防止とともに、全ての子どもへの安全確保につながっています。